

トウアツプバランスのパターって何だ!?

《 ツアー先取りギア情報 》

4 | 5 <sup>2016</sup> Vol. 12 <sup>定価</sup> 390円

週刊

パ

ゴルフ

雀鬼 勝負師対談後編

桜井章一 × 原江里菜  
「勝つための極意」

距離感バッチリ

フェアースに  
ボールが乗る感覚、  
アプローチで開眼!

本当に飛ぶ  
フェアウエーウッドの本

ビジネスリポート  
成功するゴルフ場、  
失敗するゴルフ場



チャンピオンレッスン  
イボミのぐさるパット術

ゴルフを下手にする  
コアマチュアの  
3大勘違い

今週のニュース

韓国で大論争!  
ジヤン・ハナ対チヨンインジの  
遺恨劇  
日本女子ツアーの改革案  
第2シード導入で底上げ  
シヤラポワ・シヨック!  
ゴルフ界はドーピング大丈夫?

あの頃ボクは若かった

# 昭和の履歴書

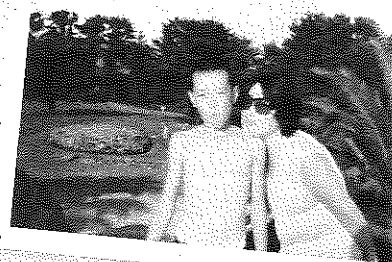
連載 第8回



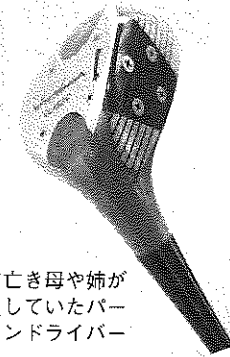
高校2年で関東ジュニアを制した後、雑誌の取材で姉・夏目雅子さん(左)と母とラウンドしたときの一枚

## 小達敏昭

おだてとしあき



中学1年。静岡県の川奈ホテルゴルフコースにて母と



今は亡き母や姉が愛用していたパーシモンドライバー

# 若くして逝った父と姉が ゴルフの道への案内人

「毎日をカーニバルにすること」が座右の銘という小達敏昭。それだけを聞けば誤解を招きそうだが、そこには二人の肉親が若くして逝ってしまったことによつてできた人生観が見え隠れする。

### 6歳の初ラウンドから 遊びのゴルフが始まった

小学校に入る直前、初めてゴルフをした日のことは今でもはっきりと覚えている。家族で静岡県のリゾートに行ったときのこと。14歳上の兄はすでに成人していて、10歳上で、やがて女優・夏目雅子となる姉は高校生。年の離れた末っ子、敏昭がプールで遊んでいると、ゴルフコースに出ていた家族がホールアウトしてきた。

「オヤジとオフクロ、兄貴もいたのかな? すごく楽しそうに笑って『自分もやりたいな』と思っただんです。そんな子供の気持ちに父が応えてくれた。『やってみるか?』『うん』。初めてクラブを握り、いきなりコースに出た幼児のプレーは、すべてティアップしてのショット。空振りは一度もなく、ゴルフの楽しさだけが残った。

東京・六本木の裕福な家庭に生まれた小達は、物心ついたころには横浜の豪邸住まい。父・宗一さんはシングルの腕前。息子にもハーフセットを買ってくれ、週に1回くらい練習場にも連れていって



10歳のときには米国で1カ月ゴルフさんまい。父とのいい思い出となっている

くれた。100坪はある広い庭には芝が張っており、ネットも完備。思う存分、クラブを持って遊ぶことができた。ゴルフボールだけでなく、丸めた紙をゼロハンテープで止めた飛ばないボールでの遊びも大好きだった。テレビで見たプロのモノマネをしながら自ら実況する。青木功、ジャンボ尾崎、セベ・パレストロスなど、レパードリーは増えていった。どちらも敏昭にとっては練習ではない。気が向いたときに楽しむ遊びだった。父と野球をしたり、暗くなるまで友達とハンドベースをしたりドッジボールをしたりする、普通の少年だった。

小学4年生になったころ、父が

叔父や友人とともに霞台カントリークラブ(茨城県)のメンバーになり、毎週末のように通い始めた。土曜日の夜にロッジに泊まり、翌日プレーする。10歳の敏昭も同行し始めた。ハンディは30。支配人の計らいで研修生と一緒にプレーしたりしているうちに、グングン上達した。初めて出場した月例競技はネット59で優勝してしまう。

もちろん子供のメンバーなど他にいないから、メンバーみんなにかわいがられた。米国留学中の兄を尋ねて、父と1カ月間ほど遊びにいったときも、サンフランシスコを拠点にサンディエゴ、ペブルビーチなどでプレーして回った。30日のうち25日はゴルフ場だった。

小学6年生になると初めてパーレーが出て、研修生に「敏昭と回ると負けるからな」といわれた。それでも、冬は苗場でスキーさんまい。本人の記憶にはないが、一度、競技に出た後で聞いたほどで、決してゴルフ一辺倒ではない。さらに母が勉強には厳しく、中学受験のために5年生から塾にも通っていた。ゴルフばかりしていたわけでは決してなかった。

### 野球とゴルフの両立から ついに一本に絞る

6年生になった4月、優しかった父・宗一さんが亡くなった。スキルス性胃がん。4カ月闘病しただけの急逝だった。父亡き後、母は勉強に対して厳しくなった。「今思えば片親だからといってグレさせないように必死だったんでしょ。姉が芸能界デビューしたときも反対したくらい。『成績が全校で20番以内に入らないと、ゴルフも何もさせない』といわれていました。その代わり、誰からも『何かになれ』といわれたことはないんです。好きなことをさせてもらえた」という状況だった。

関東学院中学では野球部に入部。ガリガリに痩せていたが、時速110キロの速球が投げられた。パワーはなかったが肩がよくて足も速い。坊主頭で毎日、厳しい練習に励んでいた。一方でゴルフも続けていた。父の没後は、父の友人がコースに連れていってくれた。初めて同世代との試合に出たのは中学1年のとき。関東ジュニア予選だった。そ

- 0歳 1968年1月8日、東京都に生まれる
- 6歳 初めてクラブを握ったのと同じ初ラウンド
- 10歳 霞台CCの会員権を買ってもらい、週末に父とラウンドし始める
- 11歳 父が急逝。6年生時に「ゴルフをやらせてほしい」と願い出る
- 12歳 初めて競技会(関東ジュニア)に出場
- 14歳 中学3年で日本ジュニア優勝
- 16歳 高校2年で関東ジュニアを制覇
- 17歳 姉・夏目雅子が逝去。その姉の後押しでゴルフの道に進むことを決意
- 18歳 日大へ進学し、ゴルフ部へ入る。2年時よりレギュラーとして活躍
- 22歳 大学卒業後、成田スプリングスCC(現・成田東CC)に研修生として入社
- 23歳 プロテストに合格
- 25歳 ヨネックス広島でツアー初優勝
- 36歳 東京・銀座に小達敏昭銀座ゴルフクリニックを開業し、レッスン活動もスタート  
レギュラーツアー通算2勝



中学3年で日本ジュニアを制した

れまで霞台CCではあくまで子ども扱いだったこともあり服装など気にかけていなかった小達は、「ジパンとTシャツで出場したんです。周りはみんな紺のパンツに襟つきの白いポロシャツ。僕を指さしてジロジロ見ていました。でも、競技委員に『次からはちゃんとしてきなさい』といわれたけど、プレーはさせてもらえました」というアウェー状態。予選落ちだった。それまで霞台CC一色だった小達のコースでの経験値が大きく上がったのは、この時期だ。父が残した習志野CCの会員権を自分が相続。同CCのトップアマ、宮辰夫さんが近所に住んでいた縁もあり、本拠地をそこに移した。研修会に誘われ、そこで腕を磨いた。

野球とゴルフ。中学生のゴルフの試合は長期休みに集中するため、2年生になると野球部は退部。ゴルフ一本に絞った。関東ジュニアの予選は通過し、霞ヶ関CCの決勝まで進んだ。腕前は上がっていたが、小柄だったため飛距離が足りない。シヨートゲームで拾いまくるゴルフだった。そして3年になると、日本ジュニアで優勝。初

めて脚光を浴び始めた。「やりたいことをして〜」  
「姉の言葉で日大進学を決心」  
しかし驚くべきことに、ここまでくると小達の練習量は大きく増えていない。週に1回ラウンドするだけで、あとは気が向いたときに庭でアプローチしたりして遊ぶだけ。「他にもしたいことはいっぱいありますからね」と友達と遊ぶことが多かった。さらに「いい大学に入りなさい」という母の言いつけで勉強も欠かせない。練習はあらずと二の次、三の次だった。

めて脚光を浴び始めた。高校2年の関東ジュニアでは優勝。日本ジュニアでもトップテンに入った。野球をしてもエースより速い球を投げるため、バッティングピッチャーになる、陸上部



やバレーボール部、バスケットボール部などからは助っ人の要請もよくきた。「後で聞いたら姉(故夏目雅子さん)も、パーシモン時代に460ヤードを2オンしたそうですねから」というから、バネと俊敏さは天性のものだったようだ。だがそんなとき、姉が倒れた。急性骨髄性白血病だった。日本ジュニアで上位に入ったことで、日大ゴルフ部から推薦入学の話がきていた小達は、このとき猛勉強していた大学に入るかどうか迷っていた。病床にある姉に相談すると「や

て打つんだぞ……。「やっぱりあの人は天才だったんだ」。あらためて先輩のすごさが分かった。トレーニングにも精を出した。実は、トレーニングに関しては、ボクシングジム時代よりさらに進化していた。走り幅跳びロス五輪7位の白井順一氏と出会い、飛距離で圧倒されていたのだ。生まれて初めて肉体的に自分よりはるかに上の人間に出会い、徹底的に体を鍛え始めていて、それを続けていた。

りたいことやらなきや損よ。私がお母さんにいってあげる」と、間に入ってくれ、日大に進むことを決意した。「舞台公演の途中で倒れた姉だからだったと思います。姉の病状が厳しいことを聞かされていた母は、私のことどころではなかったようでした」。

人生初の挫折で本気でゴルフに取り組んだ  
強豪ぞろいの日大ゴルフ部では、さすがに1年生でレギュラーにはなれなかった。合宿では水を飲んではいけないといわれ、池の水をタオルに浸み込ませ「コイ臭い水」を飲むのは当たり前。水洗トイレ

**1985年**  
ゴルフのために日大進学を決意

- 日航123便墜落事故。死者520人と世界最大の惨事にゴルフバチョフが
- ソ連共産党書記長に就任
- 国際科学技術博覧会(科学万博つくば85)開催
- 「スーパーマリオブラザーズ」が大ヒットとなる
- 電電公社と日本専売公社が民営化
- 男女雇用機会均等法が成立する
- 日本初のエイズ患者が認定される
- 世界初の一眼レフオートフォーカスカメラ(α7000)がミルタから発売

